



(参考仮訳)

プレスリリース No. 11/404
即時解禁
2011年11月8日

国際通貨基金 (IMF)
米国・ワシントン DC

クリスティーヌ・ラガルド IMF 専務理事、 世界経済の回復プロセスにおける、アジアおよび中国の役割を強調

国際通貨基金 (IMF) のクリスティーヌ・ラガルド専務理事は、世界経済の回復を実現する上での、アジア、なかでも中国が果たす役割の重要性を強調した。

ラガルド専務理事は、北京国際金融フォーラムで演説を行い¹「世界経済におけるアジアのプレゼンスの拡大は、現代の経済サクセス・ストーリーに他ならず、アジアが今日の世界経済の回復の原動力となっていることは、驚くに値しない」と述べた。

同専務理事は、中でも年平均 10%の成長率を達成し、過去 30年間で約 5億の人々が貧困から脱却した中国の成果に言及し「この地域を訪問すると、未来への希望と楽観的気持ちに満たされるのも当然であろう」と述べた。

ラガルド専務理事は「相互関連性がますます高まっている世界では、自国或いは自地域のみで成り立つことはありえない。我々は、経済の成功或いは失敗で、結びついているのだ」と述べた。

また、先進国は、信認を回復し成長を押し上げる政策を実施する、特段の責任を有すると指摘するとともに、10月26日にユーロ圏首脳が合意した枠組み、および G20 がカンヌで同枠組みを支持したことに勇気付けられたと述べた。

ラガルド氏は先進国に対し、財政および金融政策において適切なバランスを取り、安定性と成長を促し、競争力と雇用を押し上げる構造政策を推し進め、金融規制を強化し金融部門の安全性を高めるとともに、金融部門を、実体経済を支えるという役割に戻すよう求めた。

一方アジアに関してラガルド専務理事は、難しい調整作業を抱えていると指摘した。「各国は、今後襲ってくる可能性がある、あらゆる嵐に対する準備を進めなければ

¹ 演説は、北京時間の 2011 年 11 月 9 日に行われた。

ならない。しかし、依然として景気過熱圧力下にあり、長引く金融緩和政策に起因する金融の安定性リスクに直面している国も存在する」

同専務理事は、アジア各国に対し、世界経済の環境が更に悪化した場合、機敏に対応し方針を変更するよう助言を行った。「例えば、政策当局は、財政引き締めを徐々に緩和し、外貨準備や地域レベルでの外貨準備プール取極を活用する、或いは、中央銀行のスワップラインを再締結することもできよう」

また、社会的側面も非常に重要だと述べた。「アジアのリーダーはこの問題を大変重視している。より良いソーシャル・セーフティ・ネットの構築、並びにインフラ、保健医療、教育への投資の拡大に向け、多大な努力を現在に至るまで重ねてきている」

さらに、包括的な第12次5カ年計画が示すように、国内の脆弱性の軽減と経済の内需主導への転換において、中国は正しい軌道にあると確信していると述べた。

財政政策については「成長の見通しが著しく悪化した場合、資金を早急に動員する財政的余地および能力を十分に備えているならば、これを第一に行うことができよう」との見解を示した。

中国は既に再調整に向け順調な軌道にあるとして「家計所得の一層の増加やソーシャル・セーフティ・ネットの拡大などにより、輸出と投資から消費へと軸足を一層移すべき時である」と指摘した。

また、金融システムの改革は不可欠であり「以前述べたように、中国の通貨も実質実効レートで上昇が必要だ」と述べた。

ラガルド専務理事は、新興市場および途上国が一層の発言権を持つことになる、IMFのガバナンス改革の重要性を強調した。「中国がIMFの出資国の上位3カ国に加わったことは、我々のガバナンス改革の成果の一つである。すなわち、中国はIMFの大変重要なメンバーであり、その世界経済での非常に大きな役割に照らせば、その立場は相応しい」

「中国は再び世界の中心となり、今日、そして今後も欠くことのできない役割を担っている」